

木曾地区協議会

Vol.3
2017. 3発行

発行責任者
木曾地区協議会
代表 宮本 聖士

連絡先
市民協働推進課
TEL.042-724-4358

第2回 定期総会

於：町田市教育センター

平成27年2月24日に、設立された木曾地区協議会の組織は、地区の各区域内で活動する各種団体の集合体です。第2回定期総会が、平成28年6月10日に開催され、平成28年度の活動内容が下枠内のように決定されました。これは「防災」に特化した事業計画継続の検証も含めての活動内容となりました。



1. 地域活動イベント事業（80万円）
地域活動の充実を図るため、委員研修及び地域イベントを行う
2. 地域イベント支援事業（10万円）
地域のイベント情報の共有化を図り、さらなる活性化及び充実に協力していく
3. 広報広聴事業（10万円）
活動周知のため、広報誌を発行し地区内各種団体及び構成員に配布

今回の広報誌は、上記の決定を受けて、どのように活動したかを中心に報告させていただきます。

事業部会立上げ

各事業部合同会議

（平成28年 7月19日 於：町田市教育センター）

総会で決定した3つの事業を推進する組織として、青少年健全育成地区委員会（第三・第六）、民生委員児童委員協議会、木曾地区町内会・自治会連合会から、それぞれ3名の事業部員を選出しました。役員を含め18名が集まり、各団体の課題を出し合い、当協議会の活動の方向性を話し合いました。その結果を9月開催の、ワークショップへと引き継ぐ形となりました。

<具体的な課題>

防災体制、子ども・高齢者・要支援者対応、各種名簿管理と個人情報保護、世代間文化交流、地域への帰属意識低下、町内会・自治会の存続危機



ワークショップ報告

平成28年 9月23日 於：町田市教育センター



グループに分かれて意見交換



付箋を用いて意見分け

上記会議を受けて、「実際に事業化できるものは何か？」を、意見聴取するワークショップを開催しました。付箋を用いて、グループ及び20名全員の意見が分かる形式で意見交換し、その結果、防災グッズ紹介だけでなく、多くの方が参加できる実践的な防災訓練の企画が、当協議会事業に適していると意見集約されました。

防災講演会報告

講演「避難所開設と運営の体験から」講師：久保 誠一くほの せいいち

(平成29年 1月25日 於：町田市教育センター)

<講演内容要約>

テーマ「東日本大震災の避難所をみて」感じたこと

【推奨事項】

- ・避難所になる体育館を区画する（本部の設営位置重要）
- ・食事場所（大人・子ども） 育児場所 ・医療
- ・トイレの設置（女性目線で考える） ・隔離部屋の確保

【検討事項】

- ・プライバシーの確保 ・ルールを守る

【必要な物品、設備等】

- ・外部との連絡手段の確保（ハムが出来る方）
- ・緊急時に使用できる井戸

【注意すべき事項】

- ・受付で分ける判断（町内会・自治会名簿必要 未加入者問題も）
- ・心構え（パニックを起こさない）



【講師プロフィール】

町田消防署鶴川出張所の所長として、現場を取り仕切っている立場であり、被災地での救援・支援活動を実際に数多く経験されている。

防災グッズについて

本年度は、避難所開設訓練に際し、見本展示した物品から「非常持ち出し袋」と「レスキューセット」について紹介します。他にも、担架に変身する寝袋も展示しましたが、紙面の都合上割愛させていただきます。

「非常持ち出し袋」



大きな災害を経験した被災地からの情報で、被災時の家庭での防災対策の重要性が叫ばれています。その中でも、非常持ち出し袋については、各家庭、各個人で準備すべき必須アイテムだと言えるでしょう。さて、それでは何を入れれば良いのか？いくつかの物品例示をさせていただきます。

【内容例】

- ・携帯トイレ・飲料水・カンパン・簡易トイレ・充電器付きラジオ
- ・給水タンク・シート・軍手・救急パック・ヘルメット
- ・ID入れ付きホイッスル・多機能ナイフ・折りたたみスリッパ
- ・救急パック・レインコート・マスク・携帯用紙下着・浄水器

「レスキューセット」

個人で準備が必須のものではないと考える方も多いと思われるのですが、大きな地震で自宅または近隣家屋が倒壊した場合、救出作業を可能にする物です。

勿論、町内会・自治会単位、避難所単位では必須アイテムと言えるでしょう。

【内容例】

- ・平バール・大ハンマー・スコップ・つるはし
- ・ボルトクリッパー・斧・のこぎり・軍手・ロープ・ゴーグル
- ・防塵マスク・ホイッスル・サバイバルシート・伸縮包帯
- ・救急パック・ワンタッチパッド・カット絆・ジャッキ
- ・大型カッター・モンキーレンチ・乾電池



地域活動イベント事業

ワークショップの結果を受けて、今年度は『講演会』『避難所受付訓練』を行うことを役員会で決定しました。避難所4カ所（木曽境川小学校、忠生第三小学校、市教育センター、木曽中学校）のうち、毎年避難所開設訓練を行っている2カ所に協力要請して行うことになりました。

さらに、防災意識の向上を促すために、諸団体への貸し出し（防災関連物品、町内会・自治会分布地図、避難所シミュレーションゲームHUG）を計画し、分布地図は全町内会・自治会へ、また、防災関連物品の貸し出しは、木曽地区町内会・自治会連合会の防災訓練で企画（雨天中止）、木曽南自治会餅つき大会で試行できました。避難所シミュレーションゲームHUGについては、来年度中の貸し出しを目指しています。

避難施設開設訓練（平成29年 3月4日 於：木曽境川小学校）

訓練開始を午前10時として、その直前からスタッフが、拡声器を使って町内・団地内を一回りしました。その成果もあり、受付順を待つ列ができる状況を生みだしました。実際にはもっと混雑が予想されます。体育館では、卒業式練習のために整然と整理された椅子を利用させていただき、参加者約100名が、避難所についての心構えや防災グッズの説明に聞き入りました。その後、間仕切りテントや簡易トイレ体験をしていただき順次帰宅の形をとりました。



受付順を待つ列



外まで列ができました



防災グッズの説明

避難施設開設訓練（平成29年 3月10日 於：忠生第三小学校）

訓練開始を午後2時として、小学5年生と地域住民合わせて約140名の参加者がありました。小学生は一斉受付、そして地域住民は五月雨式の受付と、2段階に分けて行いました。この避難所には、12の町内会・自治会が集結するので、実際震度7以上の想定では、訓練より人数もかなり増え、昼夜問わずの状況なので、スタッフの受付対応と誘導が非常に難しいと思われます。さらに有効な方法を検討し、訓練を繰り返し行う必要があるでしょう。



受付&体育館入口で票提出



小学生が間仕切り体験



簡易トイレ体験（内と外）



「避難所開設訓練アンケート結果」

H29. 3.10
実施



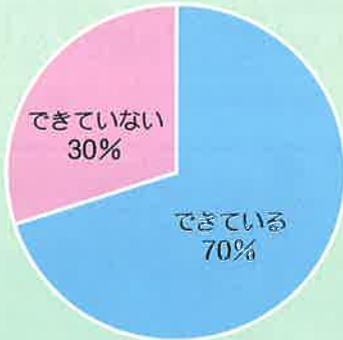
当日、56名の方にアンケートに協力いただき、
防災意識が高まっている様子が分かりました。

設問①の参加しての感想は、訓練の意図が伝わっており良好でした。

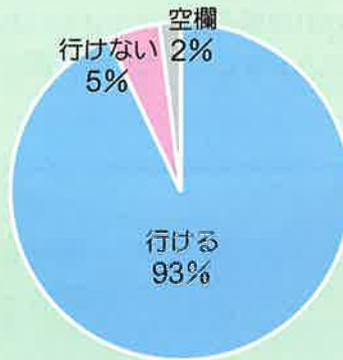
- ・防災グッズ体験ができて良かった。・訓練の必要性を痛感・どのような条件下での避難になるか心配
- ・受付訓練以外も体験したい・時間が短いと感じた・防災意識が高まった・本番が心配になった

設問②から③は、昨年度と同様な設問でしたが、「はい」と答えた方がいずれも増え、良い傾向と判断できます。ただし、「いいえ」の5%の方の対応策を考えておく必要があります。

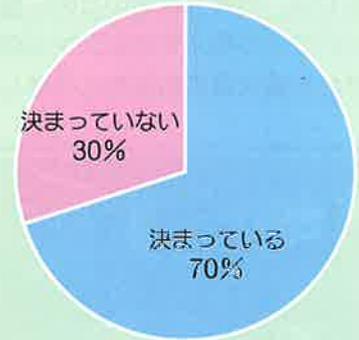
② 非常持ち出し袋等の準備は？



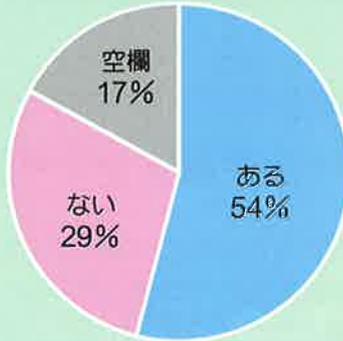
③ 独力で避難所へ行けますか？



④ 家族の待ち合わせ場所は決まっている？



⑤ 避難所に対する不安材料は？

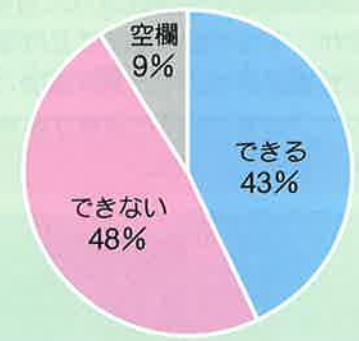


設問⑤では、昨年度「ある」と解答が76%だったが、大きく下回る結果となったのは良い傾向です。ただし、不安材料が具体的に指摘されており、その解消に対して議論を重ねる必要があります。

【具体的記述】

- ・体育館が狭く、収容人数が少ないことに不安を覚えた
- ・長期間になるとプライバシー、睡眠不足が不安である
- ・小さい子どもや高齢者（要介護）が心配である
- ・持病または、病気（感染症）した場合どうなるのか？
- ・パニック状態の際、避難所での指示出し、指導者は誰が行うか？
- ・衛生面や施設設備が心配である
- ・食料や物品は足りるのか？
- ・ペットはどうなるのか？

⑥ 避難所スタッフをできる？



設問⑥の避難所スタッフについては、昨年「できる」と答えた方が60%で、避難所スタッフとして活動できると答えた方が相対的に大きく減っています。今回、各町内会・自治会の参加者を制限しなかった分、自宅からの距離が遠い方や役員以外の参加者が増えたことに起因していると考えられます。

<あとうき>

木曾地区協議会は、その歴史が浅く、地域に根付いているとは言い難いが、この地区で活動する団体「木曾地区町内会・自治会連合会」「民生委員児童委員協議会」「青少年健全育成地区委員会」「小中高等学校」「消防団」「商工ネット」「社会福祉協議会」「高齢者支援センター」「木曾オールスターズ」を網羅する形で存在しています。

これからも有効で地道な活動を続けていきたいと考えています。

問い合わせ先 E-mail : kisotiku@outlook.com